

2016 年度事業報告

ゆめ風基金は、いつどこで起こるかもしれない大災害の備えとして救援基金を設置し、災害時、障害者や高齢者、病弱な人など特別なニーズをもつ人が生命や人権を脅かされることのないよう、適切な救援活動が行われるようサポートし、また、被害を受けた障害者の生きる場、働く場に救援金を届けることを目的としています。

以上の目的を達成するため次の事業を行います。

1. 被災障害者救援事業
2. 障害者防災活動支援事業
3. 被災障害者支援を広く訴える事業
4. 情報の収集、関係諸機関との協力及び連絡調整事業
5. その他目的を達成するために必要な事業

2016 年度（2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の活動のご報告をします。

1. 被災障害者救援事業

災害で被害を受けた障害者（個人・団体）や障害者救援・復興支援活動に対し、救援・支援金を届けました。以上の目的のために情報収集を行い、また、広くサポートを求めるために情報発信しました。

救援金総額 62,443,587 万円（東日本 1421 万円、熊本地震 48,233,587 円）。

（1）東日本大震災

東日本大震災から 6 年がたちました。

いまだ 8 万人もの方がみなしも含めた仮設住宅で生活している現状です。その内 3 万 5 千人の方がプレハブ仮設で厳しい暮らしを余儀なくされています。すべての方が仮設を出られるのはまだ 2 年かかるとされています。阪神大震災では 5 年で解消しています。

人口減も著しく、障害者の介護体制も充分でなく、障害者の地域生活の推進の取組みは厳しい道のりです。特に、福島は若い世代の流出で、医療、介護にかかわる人が少なく、非常に厳しい状態が続いています。

被災地障害者センターの現状は次のとおりです。

<宮古> 2015 年 7 月から NPO 法人結人生活介護事業所 ^{ゆいっと}うえる花夢 ^{かむ}として活動を開始。

新たに放課後児童デイサービス事業を始めるにあたり、240 万円の支援を行いました。

<大船渡> NPO 法人 123・B 型作業所エクセルシオールとして活動しています。登録利用者は 10 人になりました。

<釜石> NPO 法人障がい者自立センターかまいしとして日中一時支援事業、地域活動支援センターを運営するほか、自立障害者誕生をめざして重度訪問介護事業所発足準備を始めています。昨年 6 月より活動場所（ライトハウス）を設け、未就学児や発達障がい児の受け入れを始めました。重度訪問

介護従業者養成研修講座（2016年2月、6月実施）を積み重ね、障がい者の居宅介護事業所の事業化を図り、障がい当事者の雇用も含め準備室を設ける計画です。地域課題と向き合いながら進んでいきます。

<石巻> 親の会ともつながりを持ちながら交流活動や、イベント開催をしています。被災当事者による講演活動、広報・情報発信、公共交通機関、市内の復興計画についての要望行動なども行っています。

昨年から「障がい者ベース石巻によつきり団」として活動を始めました。（資料別紙）

<南三陸> 登米市と南三陸町で日中一時支援、放課後児童デイ活動、相談支援活動をしています。

<福島> 被災地障害者センターふくしまの活動は、B型作業所「しんせい」に場所を移し、交流・相談を中心に支援が続けられています。

被災障害者拠点、事業所への支援は次のとおりです。

<2016年度に行った拠点活動支援> 総額1421万円

福島県二本松市の「特定非営利活動法人コーヒータイム」移転費用として500万円

いわき市のNPOなこそ授産所のグループホーム建設に500万円

宮古の生活介護事業所（ウエル花夢）の運営費支援に240万円

障がい者ベース石巻によつきり団（元被災地障害者センター石巻）活動費として181万円



コーヒータイム



なこそ授産所グループホーム



なこそ グループホーム入り口で

（2）熊本地震

2016年4月14日の地震発生を受け、DPI、JILと協働で支援体制を設け、熊本地震障害者救援本部（3団体の長が共同代表）が発足しました。実働部門として、大阪の障害者事

業所により構成された関西実行委員会（平下耕三代表、淵上賢治副代表）が、被災地からの避難者受け入れと、被災地障害者センターへのボランティア及びコーディネーター派遣を実施し、これまでのべ400人以上の派遣を行いました。ゆめ風基金からは4月後半～7月にかけて2名の事務局員を派遣しました。

現地で救援活動を開始した被災地障害者センターくまもとに、早急に活動支援金を届けました。また、3箇所の被災事業所への救援金1400万円のほか、被災した障害者個人を対象におよそ923万円の救援金をお届けしました。

熊本地震救援金総額 48,233,587円 2016年4月26日～12月31日

- ・被災地障害者センターの立ち上げ活動費 500万円（活動車両5台を購入）
 - ・障害者作業所（就労継続支援B型）3か所（総額14,002,000円）
 - たんぽぽハウス（西原村）崩れかけた擁壁修理費用707万4000円
 - そよ風作業所（益城町）屋根修理と作業場コンテナ費用542万8000円
 - 希望の家（熊本市）作業所のシャッターと壁、ドアの修理費用150万円
 - ・被災地障害者センター新事務所「創生館」の整地、土壌改良、プレハブ建築費用2000万円
 - ・被災障害者個人救援金 22人の家屋修理費用 総額9,231,587円
- * 補助金、義援金の対象から外れる一部損壊のうち、生活保護か障害者年金収入のみの方に対して50万円を限度に修理費をお送りしました。



たんぽぽ作業所（西原村）



たんぽぽ作業所斜面



そよかぜ作業所 (益城町)



希望の家 (熊本市)



旧被災地障害者センター内部 中央がセンター東事務局長



活動の様子



活動の様子



仮設住宅を点検する東事務局長



関西に避難したFさん。8. 6集会にて



2017年2月にオープンした益城町地域創生館

2. 障害者防災活動支援事業

(1) 障害者防災提言集、事例集等の広報、販売をしました。

- 東日本大震災版障害者防災提言集（2013年3月発行）193冊販売
（2013年859冊、2014年469冊、2015年184冊）
- 旧提言集改訂版（2012年12月発行）131冊販売（11月末）
（2011年338冊、2012年24冊2013年385冊、2014年166冊、2015年122冊）
- 事例集こんなんええやん（2010年3月発行）219冊販売
（2011年1081冊、2012年540冊、2013年609冊、2014年222冊、2015年223冊）
- DVD「逃げ遅れる人々」（2013年2月東京救援本部制作）13本販売
（2013年83本、2014年19本、2015年23本）

(2) 講演活動、ワークショップ

41件の講演、授業活動を行いました。

(2009年20件、2010年16件、2011年54件、2012年44件、2013年24件、2014年41件、2015年43件)

<講演先>

- 1月15日：大阪府交野市・交野市社会福祉協議会 1月16日：大阪府和泉市・障がい福祉を勉強する会
- 1月20日、21日：横浜市・ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)
- 1月25日26日：大阪府堺市・ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)
- 1月29日：和歌山市・和歌山県知的障害者福祉協会 1月30日：滋賀県草津市・滋賀県障害児者と父母の会連合会
- 2月5日：名古屋市・名古屋AJU 2月12日：大阪市・ノーマライゼーション協会
- 2月14日：大阪府岸和田市・自立生活センター・いこらー
- 2月18日：和歌山県岩出市・那賀圏域障害児者自立支援協議会
- 2月22日23日：大阪府堺市・ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)
- 2月26日27日：愛媛県今治市・今治市社会福祉協議会 3月2日：大阪市旭区光陽特別支援学校
- 3月5日：東京都世田谷区・ガチャバンとともに生きる会、共催：HANDS 世田谷、世田谷自立の家
- 3月12日：仙台市・自立生活センターたすけっと 3月19日：東京都千代田区・新宿区立障害者福祉センター
- 3月20日：大阪市・視覚障害者リハビリテーション協会 5月12日：静岡県伊東市・伊東市手をつなぐ育成会
- 6月5日：京都市・京都ダウン症児を育てる親の会 6月25日：秋田市・秋田難病連
- 6月26日：石川県小松市・NPO 法人あんとふる 7月11日：大阪府箕面市・箕面市障害者者の生活と労働推進協議会
- 7月14日：京都市・JCIL 日本自立生活センター 7月27日：大阪府茨木市・茨木学園
- 8月5日：大阪市・ノーマライゼーション協会 8月27日：大阪府箕面市・箕面市障害者者の生活と労働推進協議会
- 8月31日：大阪府藤井寺市・藤井寺市社会福祉協議会 9月7日：鳥取市・鳥取人権センター
- 9月14日：大阪府堺市・大阪府立堺聴覚支援学校 PTA 10月1日：鳥取市・えねみらとっとり
- 10月11日：箕面市・中（なか）小学校 10月13日：神奈川県藤沢市・かながわ福祉サービス振興会
- 10月16日：大阪市東淀川区・日本リハビリテーション協会 10月22日：大阪市東成区・自立生活センターおおさかひがし
- 10月29日：愛媛県新居浜市・障がい児とともに歩む会 めいぷる
- 11月12日：大阪市住吉区・住吉・住之江じんけんのつどい実行委員会、大阪市東淀川区・むくのき学園（長崎・福本）
- 11月20日：神戸市・神戸市眼の会 11月22日：大阪府阪南市・日本ヘレンケラー財団
- 11月26日：滋賀県草津市・滋賀県障害児者と父母の会 12月13日 大阪市立大学 創造都市研究科
- 12月16日 八尾ネットワーク

(3) 防災ネットワーク活動

- ① 東日本大震災直後から関西の障害者団体と協働で大阪救援本部を設立し、被災地救援活動や、被災者交流、東北～関西ポジティブ生活文化交流祭、街頭カンパなどの支援活動を行っています。街頭カンパ活動は震災直後から大阪なんばで毎月実施されました。5年余りで76回に及び募金総額は**5,174,609円**（2016年12月末）となりました。



- ② 地元の啓発小学校（むくのき学園）の要請で避難所運営ゲームや授業を実施しました。

③BCP研究会（協力）

引き続き大規模災害時における事業継続計画（BCP）策定研究に取り組みました。大阪府内の事業所を中心に数回の学習会を行い、11月22日にワークショップを実施しました。

④ 広域連携会議（協力）

様々な障害者ネットワークと連携し、大規模災害が起きた時の障害者団体の役割を明確にし、連携していくための方策を打ち出すことを目的に会議を重ねています。DPIが日本財団の助成を受け、呼びかけられたものです。東日本大震災の際の状況ヒヤリングを旧被災地障害者センター仙台、福島で行ったほか、大規模災害が起きた時に被災地障害者センターをどう立ち上げればよいか、マニュアルや必要書式、会計などをデータ化しておき、いつでも誰でも見れるようにネット上にファイルを置いておくことを目的に作業を行いました。（2017年1月に静岡で災害が起きたことを想定し、静岡の障害者を大阪で受け入れるシミュレーションを行いました）。

（4）中学生プロジェクト——おおさか行動する障害者応援センターとの協働事業

障害者市民の地域防災を考える上で、中学生の参加を促したいと、2006年から地域の中学校や日赤、社協関係者と共に「中学生プロジェクト」（いのちと防災を考える「中学生の底力」ゆめ風プロジェクト）を実施しています。これまでの10年間で参加した中学生は4000人を越えました。2016年は中学校2校で実施しました。

2月 大阪市立柴島中学校（2年生80人）、事前学習 避難訓練 牧口講演

12月 大阪府摂津第2中学校（全校生徒480人）、3年160人のみ事前学習と避難訓練



（5）障害者防災活動助成制度

2006年に開始した障害者市民防災活動の促進のための助成金制度については、2016年は

3件申請があり2件承認し、各10万円、総額200,000円の助成を実施しました。

2月12日にNPO法人福島バリアフリーツアーズセンターの「東日本大震災時障害者・難病患者の調査集作成費」、青森県の日本二分脊椎協会の「二分脊椎症の防災を考える」取り組みに助成しました。

NPO法人てのひらの「救命バッククッキング」1件についてはカセットコンロ8個(ゆめ風基金所蔵)の進呈となりました。

開始以来の助成は30団体、総額374万4千円となります。

(6) 活動パネル制作 活用状況

東日本大震災救援活動とゆめ風活動を紹介するA1版パネル61枚、A3版パネルは20枚。5月共生マラソン、11月ポジ祭で展示しました。

3. 被災障害者支援を広く訴える活動

(1) ニュースレター「ゆめごよみ風だより」(B5判8~16ページ)を季刊発行し支援者、関係者、関係機関団体に被災地発、障害者発の情報を届けました。東日本大震災以降、支援者は大幅に増え発送先は1万4700人にのぼっています。発行部数は1万6千部。発行回数は1月、4月(臨時号)、5月、9月、12月の5回。

(2) 主催・共催事業

① 3月27日 原発災害と障害者をテーマに大阪市内でシンポジウムを開催しました。150人ほどの参加者がありました。

2014年から2015年にかけて原発立地の5カ所(鹿児島、島根、鳥取、青森、福井)で開催の「障害を持つ人と共に考える防災ワークショップ」まとめとして行ったもので、パネラーから次のような深刻な報告がありました。

南相馬市さぽーとセンターぴあ青田由幸さん「福島で避難区域解除がされているが、放射能汚染を考えると本当はみんな帰りたくない。だけど仮設住宅では死にたくないとお年寄りが、死に場所としてふるさとを選んでいる。先に解除された檜葉町では6%の人しか帰っていない。みんなお年寄りばかりだ」、「被災各市町村は低レベル放射能の処分場を受け入れざるを得なかった。子どもの未来を考えた時、放射能のごみがいっぱいあるところで、そこに住みたいかということ考えると胸が痛む」。

福島県田村市で障害者の自立生活運動を続けていた鈴木絹江さん「原発事故後、京都に移住した。原子力の問題は何も終わっていない」。

自立生活センターSTEP えどがわの今村登さん「2011年にドイツエコツアーに参加した。ドイツでは持続可能な街づくりのために、自家用車を使わないで暮らせる工夫や暖房効率を上げるための工夫など様々なことを試みている。何も手を打たない日本はいずれ立ち行かなくなる。生活の見直しが迫られている」。福島で市民放射能測定所を運営する鈴木匡さん「原発の影響で子どもの甲状腺がんが増えている。国は健康調査を定期的を実施する責任がある」。

② 7月2日 近畿労金ホールにおいてサポートV報告会を行いました。200人の来場者がありました。被災地報告としてCILいわきの長谷川秀雄さん、大船渡市の事業所さんりくコスモスの新沼節子さんにお話いただきました。合わせて呼びかけ人代表小室等さん、こむろゆいさ

んのコンサートがあり好評を博しました。

- ③ 10月9日 大阪市内で「震災、障害者、避難所」をテーマにシンポジウムを実施し 250 人の参加がありました。詳細は資料ゆめごよみ 77 号をごらんください。

「大規模災害 いつまで続く 取り残される障害者～障害者の避難、避難生活を円滑に進めるにはどうすればよいか?～」 基調講演 同志社大学 立木さん パネラー 石巻祥心会 鈴木さん、仙台身体障害者福祉協会阿部さん、花園学園大学（熊本市）吉村さん、ヒューマンネットワークくまもと植田さん



- ④ 11月23日に第6回ポジティブ生活文化交流祭（60団体、3500人参加）を共催しました。2011年11月から始まった交流祭、関西～被災地の障害者の交流を主眼に、すっかり定着しました。

(3) 各種メディアに情報発信

「救援活動」、「防災活動」、「ゆめ風基金の活動」、などについて発信しました。

4. 情報の収集、関係諸機関、団体との協力及び連絡調整事業

引き続き関係諸機関、団体との連絡調整活動を行いました。

主な関係団体（委員・役員就任ないしは協働関係）

大阪救援本部、東北大地震東京救援本部（DPI、JIL 他）、熊本地震障害者救援本部、障大連、共同連、関定協、被災地 NGO 協働センター、おおさか災害支援ネットワーク、東淀川区インクルーシブ教育研究会、BCP 研究会、東淀川 BCP 研究会、大阪 V 協会、大阪府教職員組合、大阪市職員労働組合、大阪市従業員労働組合
ほかのみなさま

5. その他目的を達成するために必要な活動

- (1) シングルCD「ゆめ風応援歌」の販売

2016年は29枚（2015年38枚）販売しました。

- (2) 近畿ろうきん提携融資制度「ゆめのたね」実施

2016年度「ゆめのたね」融資団体 3団体

- ①特定非営利活動法人 あすてる 兵庫県三木市

融資推薦日 2016年2月25日 融資額 200万円

2014年4月NPO法人格を取得し、障がい者地域活動支援事業を開始する。対象者は精神障害者で、主に「居場所」の役割が大きい。活動内容は当事者会、ミシンを使ったかばん等の小物づくり、週に一度の食

事会等で、地域のイベントがあれば、そこで先品を販売などしている。スタッフは常勤1名のほかは関係者が交代でかかわっている。

三木市唯一の地域活動支援センターで、現在の登録者は48名。実際に利用している人は20人前後。近隣の市町村からも登録者があり、小野市、明石市、神戸市からの利用については、それぞれの市からも実利用分の補助金が得られるようになる見通しがたっているが、安定した運営のため融資を受けたい。

② 特定非営利活動法人 障害者地域生活応援団あかね 兵庫県川西市

融資推薦日 2016年6月14日 融資額 500万円

2度目の申請。通所の利用者さんの体調悪化や親御さんの高齢化等により、グループホームの新設が急務となる。1991年小規模作業所のスタートから25年にわたり地域で地道に障害者の就労・生活支援等に取り組み、制度移行後も就労支援B型、移動支援、共同生活援助事業等、地域生活支援のための事業も展開され、この度グループホームの新設により、日中活動・就労等生活全般にわたって支援を拡大していくため。

③ NPO法人 介護福祉センター北大阪

融資推薦日 2016年7月13日 大阪府摂津市 融資額 200万円

2013年より任意団体として、2014年からNPO法人として就労継続支援B型事業所を開始され、2014年3月、1回目の融資に続く2回目の申請。出発当初5・6名であった利用者も、ここ2年ほどでかなり増え、作業所も2ヶ所目を設置され、着実に事業拡大を図られている。現在の利用者数は40名で運営的にも安定が図られてきている。障害者の一般就労への支援を含めて多様な支援内容で個別のニーズにも応えられるよう努められ、発展性もうかがえる。利用者の増加に伴い、就労継続B型の増設のための融資。

ここ数年、2度目の申請という団体もあるが、「ゆめのたね」の融資によって初期の運営が安定し事業の拡大にもつながっている。利用者の増加、利用者のニーズに対応した多様な事業の拡大という形で着実に成果を生んでいることが見受けられる。しかも「ゆめのたね」のスタートから今日まで、滞納も「こげつき」も1件も出していないというのは、それぞれの申請団体の努力も素晴らしいと思います。

(3) 「ゆめ風ネットワーク」

全国55の障害者団体がゆめ風ネットとして、災害時の窓口を引き受けてくださっていて、大変心強い存在です。2016年は新たに、東大和市と松山市の自立生活センターが加わり、55ネットとなりました。

6. 会員構成と会議の記録

会員の構成

① 運営会員 11個人 55団体

個人会員 岩永清滋 馬垣安芳 河野秀忠 橘高千秋 戸田二郎 永村實子 福永年久 細井清和 牧口一二 南純子 八幡隆司、

団体会員 ゆめ風ネット 55団体

通信発送会員 14700人 (2015年14661人、2014年14562人、2013年14549人、2012年14356人)

(2017年1月領収書発行数 3595人、2016年2529人、15年2583人、14年2000円以上2526人、13年1826人→認定後の数)

会議

○ 第15回定時総会を2016年3月28日 大阪市内で行いました。

2015年度事業報告、決算報告、全理事の更新が承認されました。

○ 理事会を 10 回にわたって開催しました。

第 1 回 理事会 2 月 25 日(木) 午後 4 時～

1 号議案 2015 年活動報告

2 号議案 2015 年度決算報告・監査報告

第 2 回理事会 4 月 22 日(木) 午後 4 時～

1 号議案 熊本地震支援方針について

第 3 回 5 月 13 日(金) 午後 4 時～

1 号議案 熊本地震報告と今後の方針について

2 号議案 宮古事業所からの申請について

第 4 回理事会 6 月 21 日(火) 午後 6 時～

1 号議案 熊本地震救援活動報告

2 号議案 救援金申請

・被災地障害者センターくまもと拠点移転 2000 万円

・たんぽぽハウス 西原村斜面が崩れそうなのでその補強工事に 655 万円（西原村から補助金は出ないのか。相見積り必要。村の土地で、村が土地建物を無償貸与。自治体に交渉してみるべき。→保留）

・そよかぜ福祉作業所 益城町

解体するので大家から立ち退きをせまられている。農地を購入して宅地転用したいとの申請

・個人給付の検討

・3 号議案 職員雇用について

第 5 回理事会 7 月 13 日(水) 午後 4 時半～

1 号議案 熊本県西原村タンポポハウスの擁壁工事申請について

2 号議案 益城町のそよ風作業所の土地購入費申請について

3 号議案 たんぽぽハウス利用者 一部損壊補修助成金

・ゆめのたね審議

第 6 回理事会 8 月 3 日(水) 午後 5 時半～

1 号議案 熊本報告 西原村タンポポハウス、益城町ラーメンハウス
被災地障害者センター 新拠点の状況

2 号議案 個人支援の検討

3 号議案 社団法人益城町拠点への送金について

その他 10 月 9 日 避難所シンポ企画について

第 7 回 理事会 8 月 18 日(木) 午後 6 時～

1 号議案 熊本報告

2 号議案 創生館への送金の件

3 号議案 個人支援の検討

第 8 回 理事会 9 月 30 日(水) 午後 6 時～

1 号議案 熊本報告

2 号議案 被災地支援金の検討

3 号議案 防災助成金の審査 2 件

・そのほか 宮古市の障害者の自立応援について A J U との話し合い経過報告

第 9 回理事会 11 月 25 日(金) 午後 4 時～

1 号議案 被災地個人支援金の検討 3 件

2 号議案 防災助成金の審査 1 件

そのほか・ 総会について

第10回 理事会 12月12日 午後4時半0～

- 1号議案 2016年度活動報告に関する件
- 2号議案 2016年度補正予算案の承認
- 3号議案 2017年度活動計画案と予算案の承認

7. 事務局体制

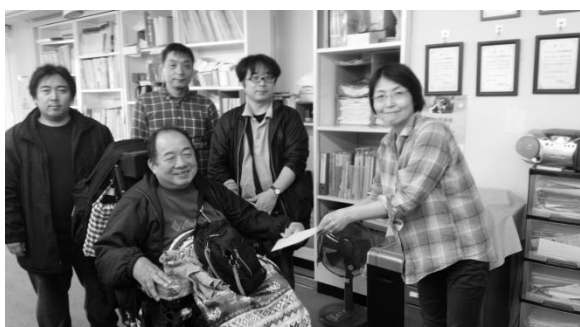
現在の事務局体制は次のとおりです。

- 事務局長 橋高千秋 (週5日)
- 事務局員 南 純子 (週5日)
- 事務局員 八幡隆司 (週5日)
- 事務局員 東 耕大 (週5日)
- 事務局員 長崎圭子 (週3日)
- 事務局員 福本千夏 (週3日)
- 事務委託 永村実子 (週1日)

HP、ゆめごよみデザイン委託 沼野周平

<2016年12月現在の業務分担>

- 橋高 総会 理事会 大阪市(市民活動課、税務課)への報告 ネットや他団体連絡調整
通信編集発行 ML 被災地連絡 救援本部 広報 呼びかけ人 イベントほか
- 南 会計(通帳管理) 正規領収書・入金記録発行 名簿 税金 保険 労基署報告 イベント
ML 資料発送 通信発送手続き、帯封印刷 講演資料・販売物送付等連絡ほか
- 八幡 救援活動 被災地相談支援 防災研究 講演 ワークショップ 救援本部 PC管理
寄付者名簿発行 取材 外部調査対応 補助金(支援機構)ほか
- 東 ブログ・HP作成 救援活動(被災地相談) 防災活動支援 関西実行委員会 BCP相談 問い合
わせ対応、ML、 資料発送、通信整理 ほか
- 長崎 問いあわせ対応、防災ワークショップ 講演 講演日程管理 補助金(支援機構) ブログ
ML 地域協議会地元校区対応 イベント 総会 ゆめ風防災助成金ほか
- 福本 販売管理 発送 新規領収書 会員礼状 中学生プロジェクト 学校授業 ブログ
地元インクルーシブ教育研究会 通信原稿 地元校区対応ほか
- 永村 ゆめのたね(相談、訪問調査、労金報告ほか) 助成金申請 被災地相談 資料整理
印刷ほか



たくさんの方がゆめ風基金に救援金を届けてくださいます。本当に感謝感激です！